マーメイド通信

逗子市立図書館報
第４１号
2004 年７月１日発行
逗子市立図書館
子市逗子 4ー2ー10
046（871）5998

アテネ・オリンピック

この夏、いよいよ第２８回夏季オリンピックが開催されます。
開催地はギリシア・アテネ。
オリンピック発祥の地ということで、なにかと話題に上っています。

古代オリンピック

オリンピックはギリシアの主神・ゼウスに捧げる祭典として古代ギリシアに生れました。その歴史は紀元前までさかのぼれます。今日のオリンピックとの大きな違いは女性の参加が禁じられていたことです。競技への参加はもちろん、見物も禁じられていました。競技者は裸体が原則であったからともいわれています。また、ギリシア人以外の民族（＝異教徒）や奴隷にも参加資格はありませんでした。性別・民族・身分に
よって参加者は厳しく規制されていたのです。古代オリンピックはあくまでギリシア人の男性のものでした。

肉体と精神の調和を人間の理想と考えた古代ギリシア人たちにとって、スポーツは健全で高貴な精神を導き出す教育の基盤であり、何より尊ぶべきものでした。従って彼らにとってオリンピックはひじょうに重要な祭典であり、開催期間中はあらゆる戦争行為を中止し、祭典の成功と無事を祈りました。これを「ゼウスの休戦」といいますが、この制度はよく守られ、古代オリンピックはギリシアの民族的祭典として約 1000 年も続きました。しかし、ギリシアの国力は次第に衰退していき、ついにローマ帝国の支配下におかれることとなります。ギリシアがローマの属国になったことはオリンピックにも影響を与えました。３８０年ローマ帝国はキリスト教を国教と定めます。ローマは全ヨーロッパのキリスト教化を目指し、それ以外の宗教を迫害。オリンピックも異教の祭典として、次第に縮小を余儀なくされます。そして３９３年、ついに時の皇帝テオドシウス１世はギリシアの神殿を破壊するよう命令。これ以後、オリンピックも歴史から姿を消してしまうのです。

近代オリンピック

オリンピックを復活させたのはフランスのピエール・ド・クーベルタン男爵です。かねて古代ギリシアに魅了されていた彼は、その華であったオリンピックの復活を目指し、１８９４年、国際スポーツ会議で近代オリンピックの開催を提案。これが満場一致で採択され、クーベルタンは、同年、国際オリンピック委員会〈IOC〉を創設します。そしてついに１８９６年、ギリシア・アテネで第１回近代オリンピックが開催されるのです。　近代オリンピックは参加者の性別・民族・宗教・身分を問わない国際行事です。その点、ギリシアの民族行事であった古代オリンピックとは違います。ひとつの宗教・ひとつの民族・ひとつの文化のもと開催されていたオリンピックはすべての人に開かれた諸民族の祭典として甦ったのです。

クーベルタンが憧れ復活を願った、古代以来のオリンピックを貫く思想とは、スポーツを通した全人教育と世界平和への願いです。

オリンピックまめ知識

○--メダル ○---○--------------------○------○　○

メダルの授与はクーベルタンの発案によって実現しました。現在では優勝者以下３位までにそれぞれ金・銀・銅メダルが授与されますが、この形式が定まったのは 1908 年の第 4 回ロンドン大会からです。第 1 回アテネ大会では優勝者には銀メダル、上位入賞者には銅メダルが与えられました。大会ごとにデザインの変わる冬季オリンピックメダルと違い、夏期オリンピックのメダルデザインは 1928 年の第 9 回アムステルダム大会以来同一のものです。大きさは直径６０ミリ、厚さ３ミリ。金メダルの内実は殆ど銀メダルだそうで、銀台に６グラム以上の純金がメッキされ金メダルになります。ちなみに日本初のメダリストは熊谷一弥です。彼は 1920 年の第 7 回アントワープ大会において、テニス・シングルで銀メダルを、柏尾誠一郎と組んだダブルスでもやはり銀メダルと、ふたつのメダルを獲得しています。

フェミニティ・コントロール * *

フェミニティ・コントロールという言葉をご存知でしょうか。オリンピックに出場する女性選手に義務付けられた性別検査のことです。選手の毛髪や唾液を採取し、染色体の様子から本当に女性であるかの確認をします。変装して女子競技に出場しメダルや好成績をとろうと企む男性選手の紛れ込みを防ぐため、1968 年の第 19 回メキシコ大会から実施されました。

ただし馬術など男女の区別のない競技に出場する女性選手にこの検査はありません。

ちなみに第 1 回・アテネ大会に女子競技は存在しませんでした。女性のオリンピック参加が正式に認められたのは 1928 年の第 9 回アムステルダム大会からです。この大会で女子陸上競技が新種目に追加され、日本でも人見絹枝が参加。陸上 800 メートルで銀メダルを獲得しています。

■□■□ 日本の参加 ■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

日本のオリンピック参加は１９１２年、第５回ストックホルム大会からです。参加選手は三島弥彦（短距離）と金栗四三（マラソン）の２名。ストックホルムまでは船で１７日間もかかりました。

当時の日本でオリンピックを知る人は殆どおらず、周囲の無理解から選手や役員たちは様々な困難に遭遇します。文部省はオリンピックを「たかが運動会」と評し、東京帝大の学生であった三島の参加を官学の名誉を汚す行為と反対しました。三島自身も迷いましたが、「世界を見たい」と参加を決意します。

資金面でも問題がありました。なんとこのときは自己負担だったのです。この点、裕福であった三島と違い金栗は苦労しました。熊本県の酒蔵業者の息子で 8 人兄弟の７男坊であった金栗は１８００円（現在の通貨に換算すると１００万円以上）という高額な費用を工面できず、参加を諦めかけましたが、手紙で弟の現状を知った金栗の兄は「(金栗のオリンピック参加は）家の誇りだ。費用は田畑を売ってでも必ず用意する」と約束し、金栗の友人たちもそれぞれ援助金を募り１４２０円を用立てます。金栗のオリンピック参加はこれでようやく可能になったのです。

金栗は黒足袋を履いてレースに参加しましたが、残念ながら日射病で倒れ落伍してしまいました。三島もやはり体調不良で最終レースを棄権しています。

この大会開会式で金栗が持った国名標識（プラカード）の表記は「ＮＩＰＰＯＮ」でした。これ以後の大会では「ＪＡＰＡＮ」となり、現在までこれで統一されています。

おすすめ本



今年の夏は４年に１度のオリンピックが、ギリシアのアテネで開催されます。また、８月は日本が終戦を迎えたことから、戦争について考えさせられる季節でもあります。世界ではまだ紛争が続いている地域があります。平和への願いをこめて、職員おすすめの、オリンピックと戦争に関する本を紹介します。

オリンピックの本

『冠（コロナ）－Ｏｌｙｍｐｉｃ　ｇａｍｅｓ－』　780ｻ　沢木耕太郎・著　朝日新聞社

写真あり

アトランタオリンピックについて書かれたこの本は作者がギリシャのオリンピアの競技場に立ち、「オリーブの枝でできた冠だけの賞品」＝栄誉を賭けて競技を行なう古代オリンピックの原点に遭遇するところから始まります。オリンピックの原点と近代オリンピックの抱える問題。今年はアテネオリンピックが開催されます。オリンピックというものについて考えさせてくれる本書を手にとられてはいかがでしょうか。

また、サッカーワールドカップについて書かれた、同著者の『杯（カップ）－Ｗｏｒｌｄ　Ｃｕｐ－』と合わせて読まれることをおすすめします。(Ｉ)

『初耳だらけのオリンピックびっくり観戦講座－しられざる競技の背景とその見どころ－夏編』　780ｲ　稲垣正浩・著　はまの出版

写真あり

夏季オリンピックの競技のルーツや見どころを紹介します。競技ルールの改正やドーピングの実態等、「平和の祭典」といわれるオリンピックの裏事情などは興味深く、各国の利害や駆け引き、水面下での政治工作など、オリンピックの多面性を意識させられます。(Ｋ)

戦争の本

『虹への旅（ドーム郡シリーズ　２）』　91.3ｼ　芝田勝茂・作　佐竹美保・絵　小峰書店

写真あり

みんな戦争は嫌なはずなのにどうして戦うの？
平和を得るためには武器をもたなくちゃならないの？
児童書といわれる本ですが、大人として痛いところを衝かれた気がします。
昨今の世界情勢と重ねてみてください。(Ｓ)

『夜と霧－新版－』ヴィクトール・E.フランクル・作　池田香代子・訳　946ﾌ　みすず書房

写真あり

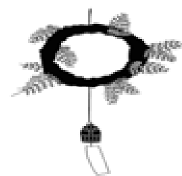
ナチスの強制収容所を体験し生き延びた筆者の、１９７７年改訂版に基づいて新たな訳者で新編集されました。前訳者の霜山徳爾さんからの、「若い人にさらに読みついでもらいたい」という希望が、この本に関わった全ての人の想いでもあると思います。

人間はガス室を発明した存在であると同時に、どんな状況でも全体主義、虚無主義、唯物主義に、毅然とした態度をとり得る存在でもあるという、筆者の「人間としての誇り、良心への信頼、愛への願い」が伝わってきます。

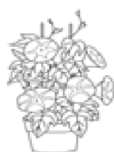
以前の訳で読んだ方が多いと思いますが、再度手にしてみる価値は十分にあります。(Ｍ)



図書館から公民館から 新着図書の紹介です



人生訓	159 マ	シゴトのココロ	松永真理著	ココロを解き明かすシゴトの取扱説明書
歴史	210.5 ホ	新選組と会津藩	星亮一著	彼らは幕末・維新をどう戦い抜いたか
社会	302 フ	黒いスイス	福原直樹著	美しい理想の国の「うそ」を暴く
教育	A 370 オ	輝け！いのちの授業	大瀬敏昭著	末期がんの校長が実践した感動の記録
生物	486 ミ	蛍を見に行く	宮嶋康彦著	蛍を捜す旅に出かけてみませんか？
医学	498 ニ	安心して食べたい！	西島基弘著	食品添加物の常識・非常識
家庭	590 コ	京の町家丁寧な暮らし	小島富佐江著	京の町家に学ぶ、ほんの少しの手間ひま
園芸	627 フ	１０１の蘭	福原義春著	原種を中心に、蘭１０１種を写真で紹介
芸術	778 カ	アカデミー賞	川本三郎著	オスカーをめぐるエピソード
言語	829 イ	箸とチョッカラク	任栄哲著	ことばと文化の日韓比較
日本文学	F サ	灰色の瞳	佐川光晴著	本格ロマンの魅力を甦らせる長篇小説
	915 オ	夢追い俳句紀行	大高翔著	先人たちの情熱の軌跡を追い求めた俳句旅
外国文学	923 チ1･2	海怒（ハイヌ）上、下	陳放著	緻密な取材をもとに中国人犯罪の闇を抉る
	933 プ	奇術師	プリースト著	世界幻想文学大賞受賞作
児童書	91.3 ネ	そらとぶこくばん	ねじめ正一作	こくばんがある夜、教室を抜け出し…
	93 ホ	池のほとりのなかまたち	ホーバン作	８匹の小さな動物たちがくりひろげるお話。
絵本	E ア	くまくん	二宮由紀子作 あべ弘士絵	くまくんが逆立ちをして考えたこと「くま」じゃなくて「まく」なんじゃない？



新着本の一部をご紹介しました。ほかにもたくさんの新着本が図書館本館や公民館新着本コーナーにならんでいます。また検索コンピュータでは、ジャンル別に新着本を見ることができます。ぜひご利用ください。

としょかんコラム

永田寛夫（職員）

こんにちは、私はこの４月から、図書館に配属されました永田です。図書館勤務は初めてで、何から何まで目新しい事ばかりの連続で、毎日戸惑いながらあっという間に３ヶ月が過ぎました。一口に図書館業務といっても多種多様であり、加えて来年度に開設する新設図書館の準備もあり多忙な日々を過ごしております。新設図書館を市民の皆様にお披露目すべく努力している今日この頃です。

さて、皆さんは本についてどのような思いがありますか。私は子どもの頃から特に本好きの少年だった訳でもなく、少年週刊漫画雑誌ばかり読んでいて、視覚力ばかりが鍛えられ想像力が乏しい少年でありました。それでも、さすがに成人になるにつれ、本にも親しむようになり、どうにかこうにか想像力が鍛えられてはきました(？)。思うに、本のすばらしさは、読者が想像力を掻き立てて、自分なりの主人公のイメージなり情景等を思い描けることではないでしょうか。人それぞれ三者三様の人生の歩みが、本を読むときの想像力に投影されて自分なりのイメージが出来上がってくるのでしょう。そう考えると本の世界に無限の拡がりを感じます。

１９６０年代に、劇作家の寺山修二氏が述べた「書を捨てて町に出よう」という言葉がもてはやされた時期がありました。その当時は、原語の意味合いと違い、色々な場面で都合よくこの言葉が使われていた記憶があります。私もその一人で、「若者は本ばかり読んで家に閉じこもっていてはいけない、外に出て青春を謳歌すべきだ」と変な理屈を付けて勉強から逃げてばかりいた時代がありました。しかし、この言葉の本当の意味は、古い観念を捨てて、新しい世界に飛び出そうというような意味だったと思います。それはともかく、図書館勤務の私としては、このコラムの締め括りの言葉として“ 書を求めて図書館に行こう ”とあえて言わせてもらいます。多くの皆様方のご来館を心よりお待ちしています。